

京城跡に存在する歴史遺産

京城跡の敷地内やその付近には多くの歴史遺産が存在しています。これらの歴史遺産などと京城跡の関係が記された書物は見つかっていませんが、密接な関係があったと考えられています。

羽山地遺跡

羽山地遺跡は京城跡の南麓に広がる遺跡です。

14世紀後半には、相野谷川流域を治める相野荘と呼ばれる荘園があり、その中心集落にあたると考えられています。

室町時代の相野荘は、新宮領に属しており、当時から穀倉地帯であったこの地は重要な拠点であったと考えられています。

平成23年には第1次の発掘調査が、平成25年には第2次の発掘調査が行われ、遺構が発見されたほか、平安時代末期から江戸時代末期までの陶磁器などの遺物が出土しました。また、南伊勢産のものだけでなく、播磨(兵庫)のものもあり、これらの出土品は、この地の人々が古くから各地との交流が行われていた



羽山地遺跡があったとされる地域

この証拠となります。現在、発掘された陶器の一部はふるさと資料館で展示されています。

東泉寺跡

京城跡の南側に、江戸時代に東泉寺と呼ばれた寺院が存在していました。現在も本堂跡の靴脱ぎ石や礎石、当時使われていた井戸跡が現地に残っています。

また、石仏や石碑、五輪塔などの石造物群が存在しています。それぞれの由来などはわかっていませんが、中には室町時代にさかのぼる可能性が指摘されているものもあり、今後の調査が楽しみです。

この上には大里東墓地があり、室町期の五輪塔や宝篋印塔が見られます。東泉寺跡と大里東墓地は京城跡の内側にあることから、城が造られる前からこの場所は、大里地区の霊場であったと考えられています。



01

01. 東泉寺跡に並ぶ石仏、石碑、五輪塔。02. 当時使われていたと考えられる井戸。03. 本堂の入り口跡に残る靴脱ぎ石。



02

03

羽山地遺跡の発掘調査で見つかった遺物の一部



13世紀中ごろから後期ごろの土師器の鍋。南伊勢系のもの。

青磁碗の体部分。15世紀ごろ(室町時代)

15世紀後半(室町時代～戦国時代)の南伊勢系土師器鍋の口縁部片

15世紀前半ごろ(室町時代)の白磁の中皿

16世紀前半ごろ(室町時代～戦国時代)の瀬戸大窯産陶器のすり鉢。よく使われた痕跡がある。

12世紀末ごろの青磁碗の高台部分。内側の中央部にはレンゲと考えられる花文が陰刻されている。

16世紀前半ごろの瀬戸産陶器すり鉢。外面に灰赤色系の錆釉

15世紀中ごろ(室町時代)の播磨系土師器鍋の体部片。外面にすずが付着。

19世紀後半ごろ(江戸から明治時代)の信楽産陶器蓋。つまみの部分は棒状。

江戸時代後期の軒平瓦と呼ばれる屋根瓦の一種。中央に開花蓮華、左右に唐草文を振り分けている。

齋ヶ丘神社

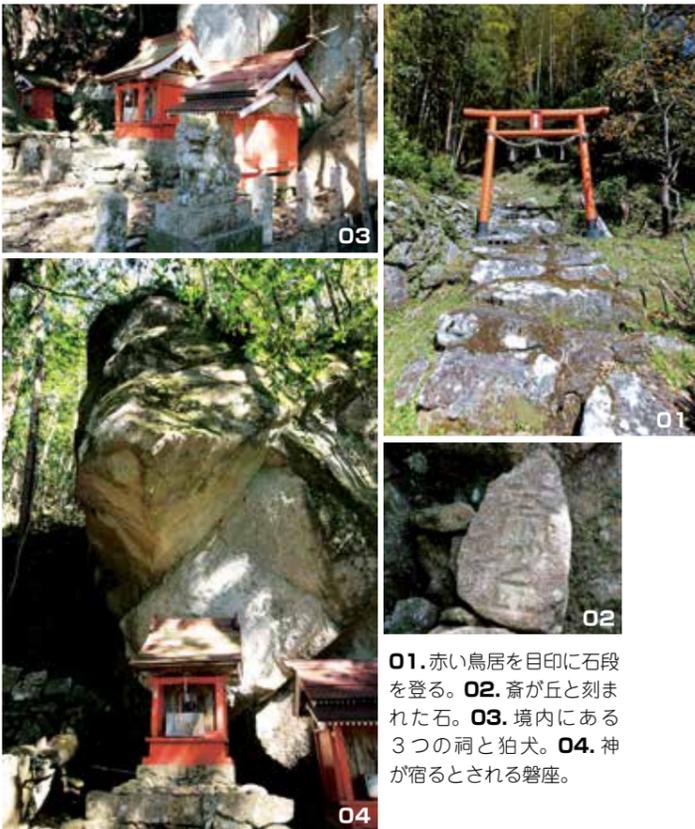
京城跡の南西部にある神社で、民家の間の石段を登って行ったところにあります。

神社にたどり着くと大きな岩がそびえています。これは神が宿るとされる磐座で、太古の昔から祭られているそうです。

また、神社には、狛犬と3つの赤い祠があり、周りには白い浜石で敷き詰められています。3

つの祠には左から天神さま、氏神さま、稲荷さまが祭られています。

この神社の「齋ヶ丘」とは七里四方に一か所しかない霊地のことを意味するそうです。3月の最初の日曜日には例大祭が行われ、地元の方々などで賑わっています。



01

02

03

04

01. 赤い鳥居を目印に石段を登る。02. 齋ヶ丘と刻まれた石。03. 境内にある3つの祠と狛犬。04. 神が宿るとされる磐座。